

手話体験講座を開催

大井ボランティア(安藤令子会長)は、令和2年2月4日に、千代 京先生を講師として寺崎公民館と共催で「手話体験講座」を開催しました。

今回の研修は、手話通訳士の千代先生の幅広い知識と経験の中にユーモアを交え、さらに動作を加えて行われたので、参加者一同の理解が深まりました。話を進めるに当たっては、参加者に寄り添い質問を繰り返し、一つ一つの内容が理解できてから進められたので良かったです。

”ゆうやけこやけ”を講師の千代先生が手話に合わせて独唱され、参加者が後を追うように合唱しました。「手話」は初めて研修ということもあり、少し緊張気味の感じもしていましたが、先生の心遣いで雰囲気が一気に和みました。研修内容の例を挙げると、簡単な手話(ありがとう、おはようなど)、漢字やものの形を表した手話(大、小、高、川など)、指文字、たくさんある名字、最後に参加者の名字の表し方など幅広い内容を教えていただきました。



(講師 千代 京先生)



(講座の1コマ)



芝間市社会福祉協議会
寺崎支部

「しんこう会」だより

第11号

「手話」豆知識

昔、言語を習得するには言語を耳で聞くしかないと考えられ耳の不自由な人々は排除(差別と言っても良いのか)されてきました。初めて手話が考案されたのは16世紀ということです。18世紀に、フランスのパリで世界最初の耳の不自由な方への教育施設が創設され「手話教育」が始まりました。日本での手話教育の歴史は浅く、明治時代に京都市内で始まりました。現在の日本では、「日本手話」と「日本語対応手話」とがあります。ここで手話とは、耳の不自由な人々のコミュニケーションの中で生まれ発展してきた言語であり、コミュニケーション手段です。

1つの日本語に複数の意味があつたり、1つの日本語に複数の手話表現があつたりもします。また、目や眉、口など顔の表情や、頭や体の動きなども手話表現にはとても重要な役割があり、1つの新しい言語と言えます。世界各国で手話表現はことなりますが、日本の中でも地域によって表現が違う場合があります。そして「聴覚障害者は全員手話ができる」というわけではないということも意外と知られていないようです。聴覚障害者の方とのコミュニケーション方法は「手話」だけにこだわらず「筆談」「口話」「空書き」など様々な方法を試みる必要があります。

昼



挨拶



「こんにちは」
「昼」という手話と
「挨拶」という手話とを
組み合わせます。

「指文字」とは

指をいろいろな形に組み合わせて、文字の代わりにする符号です。昔は、寺院の儀式で声を出せないときに使いましたが、現在は、耳の不自由な方の会話などにもちいています。

手話講座の一コマ



笠間市社会福祉協議会
寺崎支部
「しんこう会」だよ

第11号-2

参加者から

男性2名、女性10名で約2時間に渡り楽しく研修をさせていただきました。何を学ぶのも初めてのことで、ワクワクという感じでした。指文字で五十音があったり、簡単な基本の言葉や「ゆうやけこやけ」の童謡に合わせた手話などを学ぶことができました。名字の手話では、たとえば佐々木は、佐々木小次郎が背中から長い刀を抜く動きが佐々木を表します。次に宮本は、お宮の屋根が斜交いになっているのを表すように両手の指を組む「宮」、両手の掌で本を開くようにして「本」、2つ合わせて「宮本」のように、2つの文字の意味を組み合わせて1つの名字となるのがおもしろかったです。これを機会に、この経験を活かして、テレビやインターネットを利用して手話を学ぶのも良いかと思っています。顔の表情をおだやかに豊かに、そして手の動きも美しくできたらと、…。本当にありがとうございました。(女性A. R.)

先生のパワーと共に楽しく学ばせていただきました。小学校から手話の授業があると良いなと思いました。言葉と手話をセットで学ぶことが可能になったなら、言葉に障害をもつ方とも当たり前のように意思疎通ができ、世の中がもっと明るくなりそうです。手話が世界共通であつたら、どこの国の人も会話できるようになりますね。今回の手話教室に参加させていただき、いろいろと考えさせられました。ありがとうございました。(女性E. M.)

以前に「手話って世界共通語なのよネ。」と聞いたことがありました。興味をもって参加させていただき、手話発祥の経緯をお聞きし、びっくりし納得もしました。時間があればもっと練習し、歌も歌いながら手話の習得をしたいと思いました。歌を歌いながらの覚え方は、頭の中にすっきり入れることができました。英語等の外国語の苦手な私にとって、手話のできる外国の方と、手話をとおして少しでもお話しできると楽しいなアと思いました。ありがとうございました。(女性M. H.)

手話をとおして、ともに生きる社会をめざして

① 手話をするときは、話しかける相手を見ましょう。 ② 言葉どおり、口もはっきり動かしましょう。 ③ 手話で話すときは、表情がとても大切です(表情を豊かにすることが大切です)。 ④ 口の動きも一緒に見るので、胸の前、胸の高さで表しましょう。 ⑤ 手のスピードや手の強弱が気分の気持ちを表します。(相手の立場になって、手話を表現することが大切です。)